

ポリテックビジョン2016におけるTV放映までの顛末

岩城勇生^{*1}，秋間紳樹^{*2}

平成28年2月27日に開催されたポリテックビジョンは、NHK（日本放送協会）の情報バラエティ番組に取り上げられ、生放送で展示物が紹介されるとともに、展示物の一つである「太陽光据置型架台支持瓦用ネジ供給機」は、事前収録された展示までの取り組みの様子も放映された。事前収録は、約2週間にわたる密着取材の形で行われ、課題を担当した学生らの連日の奮闘ぶりが放映された。

Keywords : NHK, あほやねん すきやねん, ネジ供給機.

1. はじめに

平成28年2月27日のポリテックビジョン2016（以降、PV）は、NHKの情報バラエティ番組「学校再発見バラエティー あほやねん すきやねん」（以降、番組）に取り上げられ、生放送でPV会場内の展示物が紹介された。展示物のうち、開発課題「太陽光据置型架台支持瓦用ネジ供給機[1]」については、事前収録された当日までの取り組みの様子も放映された。この事前収録は、約2週間のほぼ密着取材の形で行われた。筆者らは、開発課題の指導教官として関わっており、本報告では、その顛末について述べる。

2. 取材依頼

2.1 最初の打合せ 平成28年2月10日、番組制作のディレクターと最初の打合せが行われた。趣旨は、放送当日紹介する展示物のうち、どれか一つにスポットをあて、各科の学生らが協力して課題を解決しているような画が撮りたいというもので、開発課題6テーマのうち趣旨に見合うものを調査中とのことだった。この時点では、どれを取材対象とするか確定しておらず、開発機器の経緯や概要を説明するにとどまった。

2.2 テーマの確定 祝日を挟んで2日後の2月12日、事前の取材対象は、「太陽光据置型架台支持瓦用ネジ供給機」とすることが確定した。当時の開発課題6テーマはいずれもPVに向けて最後の追い込み・調整段階であり、各科の学生らが協力して課題を解決しているのは同じであるが、本テーマは、まだまだ未完成な部分が多かったこと（伸びしろが大きい）、調整による目に見える動きが期待できたこと、テーマが企業からの依頼であったこと、などから選定された。

3. 放映当日までの取材の様子

取材は、学生の開発課題の取り組みに番組ディレクターらが密着し、開発機器の改善状況の撮影と学生へのインタビューによるものであった。事前収録は、編集の都合もあり25日まで行われた。ここでは、27日の当日までを時系列で述べる。

本番まで12日～10日前の時点では、学生にも危機感が感じられない取り組みであった。この状態では、TV放映のあるなしにかかわらず、課題の完成そのものが

危ぶまれたため、筆者らと担当学生でミーティングを行い、限られた時間で何をどこまで行わなければならないかを再確認し、テコ入れを行った。

9日～8日前には、テコ入れの効果もあり、学生らは、その日ごとの明確なタスクを立て、その日のうちに解決するよう取り組んでいた。それら取り組みは、連日終電まで行われ、番組ディレクターらも同様にその様子を取材していた。

7日前は、土曜日で訓練休であるが、寮生をはじめ何人かの学生が登校し、装置の調整を行った。この日の寮生の寝起きから登校するまでのシーンが、休日にもかかわらず頑張る学生として撮影された。ただし、このシーンは放映されなかった。

この時期、並行してテーマの依頼元である大同化工機工業株式会社への取材も行われていた。本番当日には、PV会場へ企業の方にお越しいただき、装置の試運転を行い、その様子を生放送するという、非常にプレッシャーのかかる設定となった。また、図1に示すチラシも製作・配布された。

5日～4日前、ここ数日の粘りが功を奏し、ネジを供給してから50本ずつ袋詰めするという一連の動きが実現した。しかし、50本に対して±1本の誤差、目標時間3分に対して5分前後なので本番に向けてまだまだ調整を必要とした。

3日前、精度の向上を試みた。ネジをカウントするプログラムを調整するが誤カウントが続く。ネジの動きを撮影して観察すると、運搬する箇所にある原因があることを突き止める。改善案をその場でいくつか出し、翌日対策することとした。

2日前、前日見つけた個所を改善した。一方、時間の向上としてネジの供給・運搬部も調整した。しかし、結果としては、白紙に戻った状態であった。本装置は、振動によってネジを運搬する仕組みであるが、部品各部の増し締め等による振動数の変化により、ネジの運搬が不十分になり、また、カウント部分においても、新たに取付けた部品の影響で誤カウントしてしまう状態であった。翌日には、PV会場へ設置しなければならないので大がかりな調整は当日中にしなければならない。試行錯誤的に調整を行い、精度、時間ともに、なんとか一昨日の状態まで復帰させた。この時すでに

^{*1} 生産機械システム技術科

^{*2} 生産電気システム技術科

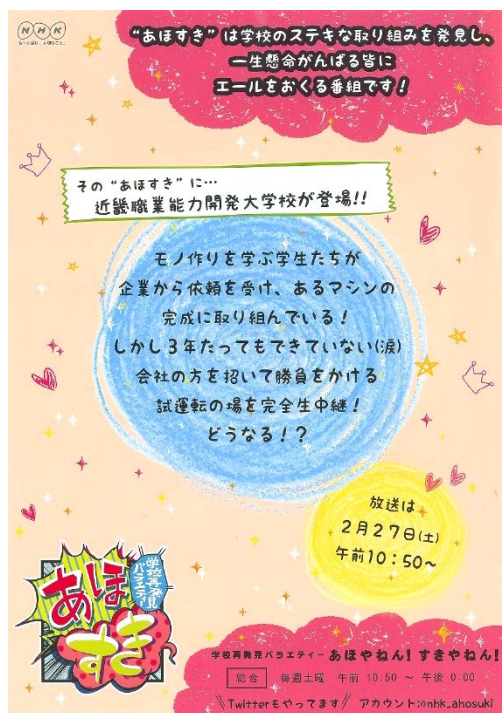


図 1 チラシ (提供 : NHK)

日付が変わっていた。

1 日前, PV 初日. 装置を会場に設置し, 展示をしながら細かな調整を行った. 精度は不十分であるが, 最悪の状態は避けて翌日の本番に挑んだ.

放送当日, 放送 2 時間ほど前から打合せが行われ, 全体の流れと装置の動きを確認した (写真 1). 事前の動作確認では, 50 本の袋詰めには要する時間は, 6 分 30 秒ほどとなった. 目標の 3 分以内には 2 倍の時間となるが, 放送時は 50 本の袋詰めが果たして 3 分以内でできるかというねらいで撮影が行われることとなった.

4. 放送本番

いよいよ本番である. 会場にていくつかの展示物が紹介され後, カメラはネジ供給機へ. 装置の紹介と事前に収録された映像が放映され, テーマ依頼元の企業からも関係者がお見えになり, 装置の稼働となった. 装置は順調な動きを見せたものの, 放送時間の都合で 3 分 30 秒の時点で止められ, 袋に供給されたネジは 26 本という結果となった. うまくいけば「大成功!」, そうでなければ「失敗は成功のもと」の発声でロケは締められるのだが, 当然, 後者でロケは終了した (写真 2).

5. おわりに

ポリテックビジョンで放映された開発課題の取り組みについて, 約 2 週間における取材の顛末について述べた. 結果は, 当初の目論見通りとはなかったが, 放送を通して学生らの開発課題に対する奮闘ぶりは伝わったのではないかと考える.

また, 今回の取材を通して, 番組関係者の番組つく



写真 1 生放送前の打合せ



写真 2 全員での記念撮影

りに対する取り組み姿勢を間近で感じることができた. 日頃, 我々が接しているものづくりの難しさ, すごさ, 面白さを TV を通じて広く一般にどのように伝えるのか, それを常に念頭に置きながら取材をしていただいた. 特に今回のような装置の開発においては, どこかでブレークスルーのようなものがあるが, 常にカメラを回してその瞬間を見逃さないようにしていた. この伝えるための姿勢は, 非常に参考になった.

最後に, 本取材において, 連日朝から晩まで学生に付き合っただき, 時にはアドバイスや作業の手伝いまでしていただいた番組ディレクターの笠井雄介氏をはじめとする番組関係者に感謝いたします.

文献

- [1] 山中利幸, 秋間紳樹: 太陽光据置型架台支持瓦用ネジ供給機の開発, 近畿能開大ジャーナル第 23 号, pp.47-50, 2015.

(2016 年 06 月 07 日提出)